

## 平成30年度第2回御前崎市総合教育会議

日 時 平成31年2月21日（木）  
午前9時00分～10時00分  
会 場 御前崎市役所 301会議室

### 次 第

- 1 開 会
- 2 市長あいさつ
- 3 教育長あいさつ
- 4 協 議  
（1）2019年度御前崎市教育行政の基本方針について
- 5 閉 会

御前崎市総合教育会議委員

職名	氏名	備考
市長	柳澤重夫	
副市長	鴨川朗	
教育長	河原崎全	
教育委員	吉村勝	
教育委員	下村勝	
教育委員	竹田和世	
教育委員	島田恵美	

事務局

職名	氏名	備考
総務部長	増田正行	
健康福祉部長	大倉勝美	
教育部長	長尾智生	
学校教育課長	長谷川延明	
社会教育課長	鈴木弘康	
教育総務課長	高田和幸	
教育総務課 課長補佐	河原崎聡信	

## 1 開 会

○司会 では、改めましておはようございます。

本日は30年度第2回の御前崎市総合教育会議に大変お忙しいところご出席いただきまして、まことにありがとうございます。

会議に先立ちまして互礼を交わしたいと思いますので、お願いします。

(起 立)

○司会 相互に礼。

(相互に礼)

○司会 よろしくお願いします。

## 2 市長あいさつ

○司会 それでは、開会にあたりまして柳澤市長よりご挨拶をお願いいたします。

○市長（柳澤重夫） 皆さん、おはようございます。今年は立春を過ぎましても列島各地大変寒い日が続きましたが、それでもここ二、三日大変穏やかで日差しもやわらかくなりまして、もう早咲きの桜も既に咲き始めまして、少しずつ春の息吹といたしますか、春の気配が感じられるようになりました。

今日は第2回教育総合教育会議と、本当に委員の皆さんには大変お忙しい中、こうしてご出席いただきまして、まことにありがとうございます。

また、教育委員の皆さんには特にこの御前崎市の教育に対しまして格段のご尽力をいただいておりますことを心から感謝、また御礼を申し上げたいと思います。

今日は、教育基本方針ということで教育長からこの御前崎市の取り組み、こういったものをお話をいただくということでありますが、同時に昨日は2月の定例会も始まりまして、議会も始まりまして、そういった中で予算も調いましたので、そういったこともお話もあろうかと思っております。そういった中で御前崎市も将来都市像として「子どもたちの夢と希望があふれるまち御前崎」、これを目指して、その実現に向けて取り組んでいるところであります。

その中におきまして教育委員の皆さんには「スクラム御前崎」、この実現に向けましてさまざまな角度から教育に取り組んでいただいておりますことを、本当にうれしく心から感謝を申し上げたいと思います。

世間ではさまざまな事件といたしますか、事故も発生しておりまして、皆さんが心を痛めているのではないかと思っております。こういったものをなくさなくてはならない、同時にこの教育のもっと充実、こういったものも保護者も地域も学校も、また一体となって取り組まなくてはならないと思っております。特にこれからは人口減少、そしてITと進んでおりますので、その中で特にこれからの人間性豊かな、感性豊かな人を育てる、これが私たち日本人の務めではないかと、こんなふうにも思っておりますので、そこら辺も含めて今日はお話をいただければ大変ありがたいと思います。どうぞよろしく願い申し上げまして、一言だけ日ごろのお礼のご挨拶をさせていただきます。どうぞよろしく願いします。

○司会 ありがとうございます。

## 3 教育長あいさつ

○司会 それでは、続きまして教育長からご挨拶をお願いします。

○教育長（河原崎 全） 改めまして、おはようございます。いつも大変お世話になっております。今日もお忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。

私からは、昨日あった出来事を2つほどお話しさせていただきたいと思うのですけれども、うれしいようなことが2つありまして、1つ目は昨日、今市長からお話あったように、議会が始まりました。その後、すぐ浜岡北小に行ったのですけれども、浜岡北小では学校支援ボランティアの皆さんの交流集会が開かれていました。約40名の参加者があり、私は時間の関係で最後のところにお邪魔しただけだったので、会場のドアをあけると、皆さんが活発にグループ討議をされていて、熱い空気が伝わってきました。私より年上の方が圧倒的に多くて、8割方は60代、70代の方だったので、それでもドアをあければ本当にやらされ感がない、自分たちで活動していくのだという雰囲気、活発な討議がされていました。本当にいい雰囲気だなと思いましたし、そういう人たちによっても学校というのは支えられているのだなということを実感しました。まさに「スクラム御前崎」の一端を見たような気がしました。それが1点目です。

2つ目は、昨夜市立図書館アスパルでジャズナイトコンサートがありました。図書館のカウンターの前に客席とステージをつくり、図書館側としては100人集まればいかなくらいで椅子が用意されていたのですけれども、最終的に152人の方が見えました。椅子が足りなくて、途中からいろんなところから集めてきて座っていただいたのですけれども、なかなか大人が文化的に楽しむ場面が少ないのかなと思っていたときに、ああいう形でやっていただくと、本当に大人の人たちが楽しめる場があってよかったなと思いました。やっぱり何かやれば集まっていただく素地というのがあるのだなと思ったものですから、これから図書館も本を貸し出すだけではなくて、文化の中心としてまたいろんな行事をやって行って、人を集めてもらうといいなということを改めて思いました。

というふうに、昨日2つちょっとうれしいことがあったものですから、ご紹介をさせていただきました。今日は来年度の基本方針についてまたご意見を頂戴して、最終的に固めていきたいと思しますので、また市長と教育委員の皆様がかかわる場というのは本当に年に数えるほどしかございませんので、ぜひご要望とかご意見等ありましたらおっしゃっていただければありがたいなと思います。よろしく願いいたします。

○司会 ありがとうございます。

#### 4 協議

##### (1) 2019年度御前崎市教育行政の基本方針について

○司会 それでは、早速協議に入りたいと思います。

2019年度、来年の御前崎市教育行政の基本方針についてということで協議をいただきたいと思いません。

進行は教育長をお願いいたします。

○教育長（河原崎 全） このままで失礼いたします。

今日は、まずは年度の反省をしなければいけないが、それについてはこの前委員の皆様方にも資料を配付させていただきましたが、自己点検の冊子を今まとめているところです。これをやってから目標を立てると、時間的に間に合わないものですから、申しわけありませんが、同時並行という形で来年度の基本方針、重点取り組み等についてご協議をお願いしたいと思います。

私からこの資料に沿って一通り説明をさせていただきまして、その後教育委員の皆様方から今年度を振り返りながら、来年度のこの重点取り組みについてご意見を頂戴できればありがたいと思います。その後、市長からまたお話をいただければと思います。それが1つ目で、2つ目はこの基本方針を離れてフリートーキングのような形で日ごろ皆様方が当市の教育について思っていられることとか、市長とのやりとりの中でぜひお伝えしたいとか、伺いたいとか、御意見等ありましたらそこでお願いをしたいと思いますので、大きく分けてその2点あたりでいきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは、資料の教育行政の基本方針の案御覧ください。当市の教育は、御前崎市の総合計画に沿

って進めているわけですけれども、同時にできた教育振興基本計画と教育大綱がございます。それがもとになっているのですけれども、そういう中から来年度、特にこうしていきたいというものを挙げさせていただきました。

まず1点目、1から4まで大きい柱をつくりました。1につきましては、スクラムで人づくりに取り組めますということで、4つ柱をつくりました。1つ目が市民に支えられた教育行政の推進ということで、まず私たちがやっていることを市民の皆様理解を深めていただきたいということがあります。子どもがいるお宅はある程度情報が入ってきますが、子どもがいないと何をやっているか御存じないという方も結構いらっしゃるものですから、ホームページ等を活用して広報活動に努めていきたいと思っています。ホームページも、自己点検の評価の会議のときに、委員の方からはちょっと見づらいのではないかと、あとメニューが子育て・教育というページと、スポーツ・文化という2種類に分かれているものですから、教育委員会の担当のところ分割されていて見づらいとか、そういうようなお話もありましたので、またそういうところも工夫しながらいろんな情報を流していきたいと思っています。

また、今日のような会議とか、あと先日も実施させていただきました移動教育委員会、あと市長部局の関係になりますけれども、タウンミーティング等通じてさまざまな市民の声を酌み取っていった活かしていきたいと思っています。

2点目が心身ともにたくましい子供の育成ということで、これはいつも市長から御指導受けているところですが、1つ目は心身の体のほうでは、新体力テストの結果、先日も配付させていただきましたけれども、その結果をもとに課題の改善を図っていった、体力の向上に取り組んでいきたいということが1つ、心のほうについては、精神的に弱い子どもたちが増えているような感じがありますので、ぜひ困難にも立ち向かえるような子どもたちを育成していきたいと思っております。

3点目は、生活習慣の定着ということでございます。これについては、スクラム・スクール運営協議会を中心に、今年度「早寝早起き朝ご飯」を合言葉に取り組みました。数値的には97、98%の子供たちが朝食をとるようになったということで、成果が十分上がってきたと思っております。ぜひこれを続けていきたいと思っておりますし、あと早寝早起きができない子供たちがなぜできないかといったときに話題になったのが、ゲームとかネット、スマホ等のことです。そういうものにとる時間が長くて、夜寝るのが遅くなると朝が辛い。朝御飯が食べられないというような悪循環にもなりますので、このゲーム障害、ネット依存、これについては生活習慣を乱すだけではなく、病気的一种になっているということも去年WHOの報道でもありましたので、そういうところからもぜひ対応を考えていきたいと思っております。

4点目が読書と読み聞かせの推進、これについては市立図書館のアスパー、県下でも指折り数えるいい図書館だと思っていますので、ぜひここを核にして子供たちに最も近い学校図書館を充実させる、あと各園の読書環境を整備する。あと、読み聞かせのボランティアの方々のお力をおかりするということで、連携を組みながら子供たちの心を育て、ある意味ゲーム障害とかネット依存の反対側に位置するわけですけれども、読み聞かせ読書の習慣化を目指していきたいと思っております。ここについては、来年度学校図書館、現在学校図書館司書が2人なのですけれども、1人増員をして3人にするので予算をつけていただいております。

5点目なのですが、これは当市ならでは、御前崎市ならではの子どもの育成ということで、原子力発電所のあるまちですので、エネルギー教育を実施していきたいということと、海もありますので、海洋スポーツ体験を経験させたいという、この2つ。これについても企業、中部電力、あと団体ならマリンスポーツクラブとかもありますので、市だけではなくて、企業とか団体と連携をとりながら御前崎市ならではの体験を子供たちにさせてあげていきたいと思っています。

以上、さまざまところが連携をしながら進めていきたいというところがございます。

次に、学びの場の充実と円滑な接続を目指しますという2つ目の大きな柱を立てさせていただきました。その1点目が基礎学力の向上、これについては学力学習状況調査の結果が毎年出てきますが、

なかなかいい結果が得られておりません。何とかしていきたいという中でさまざまな手だてを考えているわけですが、現在も行っております大学教授においでいただいて指導を仰ぐとか、今年度から第一小が県の研究指定校になったものですから、それを一つの核にして授業改善に取り組むこともやっておりますが、来年度は新たに市の独自の学力調査とか質問紙調査を小学校の2年生から5年生へ実施しまして、またその結果をもとにきめ細かな指導をしていきたいと思っております。

あと、現在続けておりますしおかぜ先生とか、各支援員等の配置、これについては継続していく予定です。

2点目は、乳幼児の保育・教育及び家庭教育の充実と円滑な幼小接続ということでございます。現在当市の園では主体的な遊び、遊び込むということを中心に保育・教育を行っております。これは非常に大事なことだと思いますので、ぜひ継続をしていきたいと思っておりますし、園だけではなくて、家庭とか地域と協力をしていきたいと思っております。また、園と小学校がうまく接続できるように、学校との連携を図っていききたいと思うのですが、そのために指導主事を学校教育課に1人増員をしまして、連携がうまくいくような手だてをとっていききたいと思っております。また、その方法の一つなのですが、就学準備冊子、現在健康福祉部でも冊子をつくっておりますけれども、どちらかというとなり手続的な内容が多いものですから、学校教育課としては、むしろ教育の中身に重点を置いた学校へ入るための準備の冊子を作成していきたいと思っております。それを作成したときには保護者が集まる機会等があるものですから、ただ分けるだけではなくて、説明をしながら家庭でのさまざまな手だてもお願いをしていきたいと思っております。

3つ目は、情報教育の推進、これについてはもう現在各学校、i Padが40台ずつ整備されておりますので、あとICT支援員も巡回しております。これを続けていきたいと思っております。

3つ目の柱は、社会教育に関することですが、より豊かな人生を過ごす支援をしますということです。生きがいや潤いをもたらす文化・スポーツの振興ということで、社会教育については現在通年で土日等も含めてさまざまなイベント、行事が行われています。市が全て主催でやるということ、なかなか大変なものですから、やはり文化協会とか体育協会が主体となって活動していただいて、それを市は支援していくというような形をとっていただければと思っております。

4つ目の柱は、課題への対応を推進しますということですけれども、その1点目として命を大切に教育への取り組みということで、防災、防犯、交通安全、この3つがその中の取り組んでいく具体的なものになるかなと思っております。防災については、自分で自分の命を守っていくというような取り組みが必要になると思っております。防犯もそうなのですが、また交通安全については、昨年浜岡中学校の生徒が1人、命を失っており、それは忘れてはいけない出来事だと思いますので、来年度は命を落とす子どもが一人もいないような形でさまざまな取り組みをしていきたいと思っております。

2点目は、公民館のコミュニティセンターの推進です。現在2020年度からコミュニティセンターか地区センターになるかもしれませんが、呼び方はまた考えていくわけですが、公民館をそちらに移行する形で動いております。その移行の作業もありますし、移行した後、教育委員会としては生涯学習事業、また各種学習講座の担当をしていくことになるものですから、そちらをどういうふうにして一元化して企画していくかというあたりがポイントになるかと思っております。

3点目は、学校教育施設・社会教育施設の整備ということで、これはハード面になりますけれども、既に動いておりますが、小学校及び園への普通教室へのエアコンの設置、夏までに行う予定です。浜岡中学校の校舎建てかえ、学校給食センターの統合整備、この3点が学校関係のハード面では非常に大きな取り組みになっております。あと、社会教育施設も老朽化が進んでいるものですから、そちらの修繕工事も必要となっております。

また、小学校校舎の長寿命化、これ建てかえというよりも、どういうふうによく使うかということになりますけれども、そちらの計画への対応、検討していく必要があると思っております。

最後になりますけれども、浜岡保育園が2020年度から民営化されます。そこまでは決まっておりますけれども、その後市全体の園の運営計画はまだ決まっておりませんので、長期的にこれを考えて

いく必要があると思っております。あと、同時に職員が不足しているという大きな問題があるものですから、これは教育委員会だけではなくて、総務部の総務課とも連携をとりながら、職員が確保できればまた待機児童の解消というところにも結びついていくものですから、何とかしていかなくてはならないものと思っております。

以上の大きな柱でいくと1から4までを中心に、これだけやるということではなくて、例えば文化財の保護であるとか、そういうものはここに入っていませんけれども、当然やらなければいけないことですから、特にということはこのあたりを重点的に取り組んでいきたいと考えております。

それでは、最初に教育委員の皆様方から、年度のもう終盤なものですから、振り返りながらということでも結構なわけですけれども、そういう中で振り返った中で、では来年度こういうのも入れていったほうがいいのではないかとか、このところはこういうふうにならざるを得ないかとか、ご意見をいただければありがたいなと思います。

それでは、竹田委員。

○教育委員（竹田和世） お願いします。先日、移動教育委員会であちこち小学校を伺ったときに、私の中ですごく印象的だったのは、読み聞かせボランティアの皆さんでした。ほかの方々は今の子は落ちつきがない、人の話が聞けないという中で、私たちが読んだのはみんな耳を傾けてくれて静かに聞いてくれますという、その言葉がすごく力強くて印象的で、やっぱり読み聞かせって大事だなと。大人になってからも本を読む人、そういうのをつくり上げていくには、小さいときからの読み聞かせがすごく大事ということに改めて思ったのですけれども、私、今中3の生徒のご父兄と面談したときに、その方も小学校で読み聞かせボランティアをされていて、その方がおっしゃっていたのは、次の世代の若い読み手がいないということがすごく問題になっている、悲しいことだということをおっしゃっていました。

何となくこういう書面にはその読み聞かせボランティアの活動促進と、こういう活字には出ますけれども、実際にもっともっとその人たちは自分なりに働きかけはしているけれども、なかなか世代が違うと声かけもしにくいし、それがうまくいかないのだということをおっしゃったので、あちこちの場でもっともっと募集をするとか、何か声かけをしていかないと、だんだん尻すぼみになっていったら残念だと思いました。

それから、もう一つですけれども、自分が今のITとかそういうのにすごく弱いところもあるので、ちょうど昨日の静岡新聞で小中学校のスマホの使用を文科省が容認方針ということで新聞に載りました。私の生徒で3年生、4年生の兄弟が、今までお迎えの電話貸してと言った子が、今日はスマホを持っているから要らないと言うから、私スマホなんか持ってこなくていいよと。先生の電話使えばいいのだからって言ってしまっていたのですけれども、そういう時代になってしまったのかと思っていたら、その翌日に静岡新聞にこの記事が載ったものですから、自分が時代おくれというか、すごく衝撃的なところがあったのですけれども、ただ小学校4年生から6年生で今55%くらい、中学生で66%くらいの保有率ということをおっしゃっていたのですけれども、私は持っていない子たちにも目を向けていかないといけない。言われたのは、大阪での地震とか何かで、子どもたちと早くコンタクトをとって無事を確認したいと、それはとても大事だと思うのですけれども、それでもって私はもっともって怖いことも思ってしまって、子供が学校へ持っていったときに、ちゃんと電源を切るのか。休み時間に外へ出て遊ばないでそれを使ってゲームしていたらどうするのだろう。でも、それをちゃんと見ている大人がいないと、子どもたちがこそこそしてしまうのではないかとか、すごく心配というか。そうしたら早速ワイドショーで尾木教育評論家という方が言われていたのですけれども、やっぱりそのルールというのをしっかりこれからちゃんと議論し合って、保護者とも議論し合ってルールをつくっていかないと、それからではないかということをおっしゃっていたのですけれども。若いママたちというのは、こういうニュースにはすぐ飛びつくと思うのですよね。御前崎市はどうするのだろうかとか、そういうときに市でもそういう話し合いの場を持って行って、ルール決めをしていかないといけないのではないかなと、そんなふうに思いました。

以上です。

○教育長（河原崎 全） ありがとうございます。

ボランティアの若手の育成というのは難しいところもあって、若い方は働いている方も多いものから、なかなか時間をつくれないというのがあると思いますが、またボランティアの方々の、それこそ読み聞かせのボランティアの方々の集まりとか、今アスパルでもやっているものから、そういう中で輪を広げていければいいなと思っています。

島田委員、お願いします。

○教育委員（島田恵美） 「スクラム御前崎」といって、さまざまな取り組みをやっている御前崎市ですけれども、本当に確実に成果があらわれているのではないかと思います。

先ほど竹田委員も言ったように、私もこの前の移動教育委員会の際の図書ボランティアがすごく印象に残っていたのですが、本に触れ合うというのが少ないと世間では言われているけれども、御前崎市では反対に本に触れ合う子が増えてきているのではないかと、それがすごくうれしく思いました。さらに読書ができる環境を設定できるということと、習慣化を目指していく、この目標に掲げてありますので、本当にぜひそうやって進めていただけたらうれしいと思いました。

御小に行ったときに、スポ少の方々の指導者の方々の話を聞く機会があったのですが、本当に自分一人一人が熱い思いを持って指導してくださっている。私もそれまでは、学力は伸ばしていかなければいけない。でも、スポーツ、体を動かすほうはそんなに重点を置いていなかった気がしますが、やはり勉強と同じようにスポーツも伸ばしていく必要があるのだなとこのごろ感じています。スポ少は学校とか家庭では味わえない集団生活とか、縦のかかわりもすごく充実しているのだということもわかったので、ああいう方たちがもっといろんな場でスポ少をやるとこういうことがいいのだよということも広めていってもいいのかなと思いました。実際に私もその年代というか、小学校のときにそういうことを知っていれば、ちょっとスポ少のことも考えたなというのを思いました。

あと、浜岡保育園の民営化ですけれども、私も一度民営化というのを味わったことがあるのですが、保育園の先生、幼稚園の先生、今は分けてはいけない時代だと思うのですが、年の大きい先生というか、さまざまないろんな考えを持っていらっしゃる方がばらばらに一緒になるということは、本当に難しいことだと思うので、市役所の方々の力をかりながらうまく運営に携わっていただけたらうれしいと思いました。

以上です。

○教育長（河原崎 全） この前の移動教育委員会ですスポ少の指導者の方のお話を北小でも御小でも学校とは別の世界があり、非常に新鮮だったと思いました。今まで学校ですと、学校の部活動にかかわっている子供たちのことはわかるのですが、スポ少の情報とか、あとこの頃クラブチーム、そちらでの活動というのはなかなかちょっと分けて考えてきたようなところがあると思います。やっぱりそうではなくて、一人の子どもに皆さんかかわっているわけですので、そのあたりはいろいろ情報交換していけば、一人の子どものいろんな面を見つけることができるのかなと思いますので、いい場であるし、やっぱり学校もそういう学校以外での子どもたちの活動というのをぜひ知る、知って理解して、また声をかけるとか、そういうことも大事なのかなと思います。

表敬訪問もいろんな方が見えますよね。学校だけではなくて、市長のところに見える子どもたちも、昨日もスポ少の子どもたちだったのですが、クラブチームの子どもたちも見えたりします。学校に聞くと、余り知らないと言われることもあるものから、そのあたりは学校と、あとほかの社会体育的な活動も、もっと連携していく必要があるのかなと思います。

下村委員。

○教育委員（下村 勝） 御前崎の特徴が出ていてすごくいいと思います。特にエネルギー教育と海洋スポーツの体験とか、こういったところは今一番下にいるのですが、もう少し前の位置にあってもいいのかなという気持ちもします。

あと、僕の中で大事だなと思っていることは、今話題にも出てきましたけれども、やっぱりゲーム

障害、ネット障害への対応。これは恐らく教員もそうですけれども、市の保護者もすごく心配しているのではないかと思います。実際一番問題なのは、安易な報酬というのですか、ゲームをやって達成感を感じてしまうと、ほかのことへの興味がなくなっていくのは当然なので、そういうリスクがどういふリスクがあるのかというのをしっかり啓蒙していく必要があると思うのです、子どもに対して。そういう説明、子どもに何が危ないのだということとちゃんとわからせるような教育というのがどこかにあるといいなと思います。もしこの文章の中で書くとなると、ゲーム障害、ネット依存への対応というよりも、その依存の防止と啓蒙活動とか、そういうほうが事前対策という意味でいいのかなと思います。現在本当に問題が起きてからそれに対応するのではなくて、それを事前に防ぐという、そういう表現がいいのかなと思いました。

あともう一点は、基礎学力向上のところ、全国学力学習調査状況に見られる汎用的な学力の向上のためという表現がされているのですけれども、私自身は学力調査の結果を上げることを前提にしないほうがいいのではないかと思います。というのは、その結果が主義ではなくて、やっぱりそこに至るまでの努力とかそういうものを評価していくような姿勢が見えたほうがいいのではないかとちょっと思います。特に幅広い知識をつけなさいというよりも、どちらかといえばこれからの時代は、何か特別な能力を一つ持ちなさいのほうが評価が高いと思うのです。なので、汎用的よりもむしろ個性を伸ばすとか、そういうところを重点に置いたほうが御前崎の特徴が出やすいのではないかなという感じがします。もちろんベースとなる基礎学力も大事だとは思っているのですけれども、その目的として学力調査の整合性が余りよくないのではないかなというのがちょっと正直なところで思いました。

以上です。

○教育長（河原崎 全） ありがとうございます。

今までゲームとかスマホというところ、どうしても何かトラブルに巻き込まれますよとか、どちらかというところ、そっちが強かったと思うのです。生活指導面といいますか。ただ、もう今そういう状況ではなくて、むしろ病気に近くなってくるのではないかと脳の中身のほうにかかわってくるところがよく言われているものですから、そちらの方面をもっと重視して考えていかなければいけないのかなと思っています。

市の生徒指導の先生方の集まりの中でも取り上げ始めてくれまして、今、細かい調査を始めています。またその対応にも力を入れていく予定であります。

吉村先生。

○教育委員（吉村 勝） 冒頭、市政方針演説のこの資料をいただきまして、ぱっと目を通させていただいて、市がこれだけ教育に細かいところまで神経を使っていたら、御前崎の教育を推進していこうという、そういう意思があらわれていて、大変ありがたいなと思いました。これだけのバックアップがあれば、やっぱり教育関係、教育行政はもっと頑張らなければいけないのかなという感じでした。

そういう中で、数年、こここのところもうちょっと手を入れたいなと思うのが、家庭教育の関係で、市長の方針の中にもありましたが、特にその家庭教育の中でも親の教育に対する考え方というか、そこをいかに理解していく、教育に対する理解力を高めていくかというか、そこが非常に大事なところではないかなと思うのです。そこがここ数年、ちょっと弱かったのかなということを私自身は反省をしています。

学校には家庭教育学級というのがあるのですが、若干そこがあまり機能していないような感じを持ちました。なぜそこを言うかというところ、やっぱり家庭の教育環境が子どもの育っていく中で非常に大きい影響力を与えているという。家庭の中でその教育に対するような話が両親や祖父母の中で話題になるような家庭の子どもというのは、教育に対する関心というか、そういうものが自然と植えつけられていくような思いですし、統計的にもそういうことが出ているわけです。ですから、その家庭の教育力を、特に親の教育に対する考え方をどういふふうに進んでいって、園保の教育へつなげていくか。それから、その園保の教育が学校教育へつなげていくわけですが、これは教育長のほうにも出

ていますが、そこが一つの大きい教育のポイントではないかと私は思っています。

主体性というか、そういうことを最近よく言われるわけですが、それは主体性がその形の中でなかなか指導することは難しいけれども、自然とやらざるを得ないという、そういう育ちをさせていくということが家庭教育だと思うのです。だから、親のその教育に対する考え方ができていないと、そこが難しいだろうなど。これは特殊なのですが、虐待の問題が非常に出ています。親なんていうのは、もう子どもを将来どういうふうに育てたいかと、育てていきたい、どういう大人にしたいかなんていう、そういう哲学的な見通しというのは全くないわけです。だから、そういう家庭で育った子がいかに心優しい育ちをしつつあっても、やっぱりどこかでねじれていくという、そういうようなところがあるのではないかなと思います。

ですから、そここのところをできたらやっぱり市の教育もその辺をポイントにしていくことも一つ大事なことでないかなと。それが学力向上にもつながっていくような気がします。

あとは地域の教育力とか、もう一つ、僕はこの前も御小で言ったのだけれども、自然体験教育というのがあると思うのです。そんなことも含めて、ポイントはやっぱり僕はそこだと思うのです。その家庭教育と親の教育に対する考え方の行動というか、そこをちょっとてこ入れする必要があるのではないかなと、ここ数年ちょっと感じているところです。

○教育長（河原崎 全） ありがとうございます。

ずばり核心のところだと思うのですけれども、具体的な方策をまた考えていかなければいけないなと思います。話のわかる方はいろんなところに出てきてくれるのですけれども、お願いしたいなという親はいろんなところへ出てきてくれなかったりして、そのあたりがいろんな場面でも難しいところだと思っていたので、また事務局でどうやったらそういうぜひ伝えたい親へ伝えることができるのか考えていきたいと思います。

一通り回りましたが、市長いかがでしょうか。

○市長（柳澤重夫） 今の教育委員の方からもいろいろお話がありましたが、スマホの問題や読み聞かせというのは特に子どもたちの心に訴えるという意味で、すごくいいと思うのです。ボランティアの皆さんがやっていますけれども、それに聞き入って子どもがその世界に入ってというのは、子どもの心を動かすし、読み聞かせというのは子どもたちにすごくいいと思う。そういう中で昔成功した人物像、そういったものも取り上げてくれると大変ありがたいですが、どんな内容の読み聞かせかわかりませんが、昔で言うと二宮尊徳とか、成功した松下幸之助さんとか、そういった人物像を目標として頑張ってもらえればそういった読み聞かせもいいと思うのです。子どもの心に訴えるというのは、心が豊かになりますし、善性につながると思うのです。ですので、読み聞かせというのは本当に子どもにとってはすばらしい教育の一つの一環だだと思います。

スマホについても今皆さんが持っていますので、どこかで制限するのか、そのままにしてしまうのか、災害のときだけ利用するのかということもこれからの大きな課題だと思うのです。文科省もこれを認めるようなことを言っていますので、今学力の話も下村委員からあったわけですが、学力が全てではないと思うのです。そこに至るまでの努力や過程、挑戦する力といいますか、そういったものが大事だと思うのです。その結果として学力があるわけです。

今、吉村委員からお話がありました家庭教育でありますとか、保護者が家庭教育の中でどういう教育を思っているのか、これは大切なことだと思うのです。平成18年の第1次安倍内閣で、そのときちょうど60年ぶりに教育基本法が改正されたのです。当時はいじめが多くて、その中で多分教育基本法第13条かな、今まで一言一句変えなかったのです、教育基本法を。その中で60年ぶりに教育基本法が平成18年に改正された。これは当時の世相の中で、いじめでありますとか、そういったことが大変多かった。家庭教育や地域教育、こういったものを文言として入れ込んだのです。入れ込んだけれども、それがずっと活かされていない。こういったものも今先生がおっしゃったことに入っているのかなとも思うのです。

平成18年に教育基本法が変わりましたので、私その議会で議員だったものですから、議会で一般質

間をしたのです。子ども育成条例をつくってほしいという一般質問をしたのです。家庭との役割、また地域の役割、またその団体の役割、こういったものを一般質問したけれども、回答はなくて、今もそのままですが、今も私はこだわっているのです。御前崎市の子ども育成条例、こういったものを制定したいという気持ちは今も変わらずにあります、なかなかそこまで至りません。そういったものが大切だと思います。虐待に遭っている全国の子どもたちは今13万件ぐらいです。そんな状況の中で、子どもたちの帰る家はあっても温かい家庭がないという、そういう子どもたちが本当に多いと思うのです。そういった子どもたちに温かい手を差し伸べると、学校だけではできませんので、地域もみんなして一緒になってこういった教育環境に取り組む必要があるかなと思います。

学校だけが過重な負担をするのではなくて、お互いに地域の子どもたちをみんなして支えていこうと、こういったものをやっていかないと、家庭教育の中にも響かないと思うのです。そういった意味でみんなで行き詰る必要があると思います。

さっきの冒頭にも話をしましたが、ITの人工知能で人口も減っている。人工知能にはかなわない部分もあると思うのです。ですが、その人工知能に勝るといのが人間のそのいろんな柔軟な能力と、その場においてだと思ふのです。そういった人をこれから育てるのがこれからの私は教育だと思っていますので、学力が全てではないと、その中で学力と同時に人間性といいますか、そういったものもつけていかないと、日本のこの社会といいますか、今の社会を見ていると将来の子供たち、今の若い親たちはわかりませんが、どうなるか本当に心配しています。私は今の教育の中でこの子どもたちが親になったときにはすばらしい社会になるのではないかと、こういった教育をしていただきたいなど、私はそんなふうにもいつも思っているのです。子どもたちがいじめられて、生きたいけれども命を絶たれてしまう子どもたちが、こんなことがあっていいのかと思うのです。こういったことだけは絶対に防いでいただきたいなと思います。それにはみんなが立ち向かうしかありません。教育現場だけでできることでもないし、難しい問題ですが、こういったものは提起して、地域ぐるみで家庭全体で行き詰る必要があると、そういったことを訴えることも大事だと思います。御前崎は子どもたちにはこうしていきたいのだという、そういったものを学力だけでなく、もうそういったものを全体に訴えかけるのが大事ではないかと思ふます。

○教育長（河原崎 全） ありがとうございます。

それでは、皆様方からいただいたご意見等、もう一度中へ織り込みながら、最終的な基本方針の重点取り組みの案をつくっていきなさいと思います。この件はよろしいでしょうか。最終的にはまたご提示させていただきたいと思ふます。

○教育委員（竹田和世） 1つ気になったのは、今市長の話を受けてですけれども、自殺者が年間3万人ぐらいなのが、この十何年間で2万5,000人ぐらいに減ったと。だけれども、19歳以下の自殺者は逆に増えているということ、何か新聞で私も読んだのですけれども、市長が言われたような家庭での居場所、学校での居場所。病院に行ったときに、絵本があるのにお母さんが膝に抱っこして本を読まないでスマホをやっている、あれはこんな小さい子でもこの子の家庭での居場所ってあるのかなと思ふました。100%近くの子どもが学校が楽しい、学校が自分の居場所と思ふる御前崎市になってほしいなと私も何か思ふました。

○市長（柳澤重夫） さっきスポーツの話が出ましたが、昨日も教育長からあったバレーボールが東海大会に出場し、今日も御前崎中学校のバレー部の表敬訪問があるのですが、スポーツすごいですよね。本当にあらゆる部門の中でスポーツというのは、こんなにスポーツで東海大会、全国大会に行く市というのはないと思ふのです。空手もそうですけれども、全ての部門で活躍している子どもたちが、またそういったスポーツを通じて心と体を鍛えるのもこれもすばらしいと思ふのです。剣道もそうです、心身を鍛えるというのはやっぱりスポーツが一番、そういったことが人に対する交流と思ふいやりとか、そういったものも育ってくると思ふますので。

○副市長（鴨川 朗） 1点だけよろしいですか。

最後のページの4番目の（2）のほうに、公民館のコミュニティセンター化、仮称ですけれども、

この関係ですけれども、教育委員の皆様にご承知だけしておいていただきたいのですけれども、特に旧浜岡地区の公民館は、名称は公民館ですけれども、現状はもうコミュニティセンターのような事業をしていますので、名称は変わるのですけれども、内容が変わるものではありませんので、そこだけご承知いただければありがたいと思います。

○市長（柳澤重夫） 1点いいですか。

県の弁護士が御前崎市に来ました。そこで話をしたのは、弁護士会を使ってほしいということで、この虐待のことで今文科省が動いていますよね。そういった中で、いろんな弁護士とかいろんなことも虐待に対して必要とされるということで、スクールロイヤーという話もこの前したわけですが、その県の弁護士会は出前講座をやってくれますよと、そういったことに対して言っていましたので、学校の中でそういったことがないように、その出前講座をやっただきながら弁護士も話をしてくれますので。そういったこともやってほしいと思う。教育長には渡してありますので。

○教育長（河原崎 全） では、この1つ目の件についてはよろしいでしょうか。

では、せっかくの機会ですので、この基本方針とは離れて、市長もいらっしゃいますので、フリートークのような形で何か思っいらっしゃることがあれば、ぜひお願いしたいと思うのですが、いかがでしょうか。

○市長（柳澤重夫） 本当にもう教育って難しいですよ。先生方も難しいと思うし、親も難しいと思うし、これでよしということは多分ないと思うのですけれども、そういった中で授業を行ったり。何か教育現場のほうでは個性を尊重する教育をやっているの。

○教育委員（下村 勝） 個性を尊重するという意味と、いろんな人がどこか自分の最適な就職まで含めて人生を歩めるようなことは考えて、やっぱり個性を重視というのはしていない。

○市長（柳澤重夫） 個性というのは、全ての人がいい個性を持ってくるばかりでもないと思うのです。そうでない挑戦的な個性を持って生まれてくる子どもも多分あると思うのです。そういったものを放置しておく、とんでもない個性を尊重して教育することになりますので、早い段階でそういったものは家庭なり教育現場の中で個性を修正してやるとか、いいほうへ個性尊重といいますか、そういったことをぜひやっていただきたいと思いますが、ただそのままの個性をそのまま尊重するというのも少し心配な面もありますので、善性を伸ばすならいいわけですが、そうでない個性はそこでいいほうに修正してやると、こういった教育も大切だと思いますので。少し感じたところを。

○教育長（河原崎 全） いかがでしょうか。せっかくですので、何かあれば。

○教育委員（竹田和世） 何でもいいのですか。

○教育長（河原崎 全） はい、いいですよ。

○教育委員（竹田和世） 学力テスト、一斉のテストの評価で、やっぱり保護者の方の話を聞くと、2クラスずつあったりすると、こちらのクラスのほうがいいと、この先生の教え方がうまいからとか、やっぱり何か一斉のそういうテスト、それから点数を上げたいから、事前にテストのための事前準備のこういう問題が出るから、こういうところをやっておきなさいみたいな、何か本末転倒のところも出てきてしまっているような気がしないでもないのです。カリキュラム的に時間が足りない、足りないという割に、そこにばかり何か、どうなのだろうなと思ってしまうときもあります。

例えば子どもたちが学期末にチャレンジテストがあるよと。ここから出るよと、1回で合格するためにはここをやっておきなさい、さらに再テストをやってみたいな、もうそうしていかないと定着していかないというのも問題なのですけれども。そして、高校生ぐらいになったときに、範囲のあるテストはできる子はいるけれども、もっと大きい範囲のテストになると、力がないというのが明らかになってくるとか、その辺って何なのだろう。どこかが問題なのかなと思ってしまいます。難しいですね。

○教育委員（下村 勝） 考える力を育てるということと試験ができるというのは、多分ちょっと違う評価の対象になると思うのですけれども、やっぱり試験ができるだけではなくて、考える力というのを育てることが、小さいときの一番大事なことなのかなという感じがしますけれども。

○教育委員（竹田和世） 何か東大合格ロボットをつくったけれども、今回断念したということがあったのですけれども、やっぱりそれさっき市長が言われた読解力。私も、表現力とか読解力とか、その歴史観とか芸術的センスとかというのは、やっぱりロボットでは無理だなと思っているところがあって、だから今回そうなったのによかった、人がもっと人の気持ちの部分とか、そういうのが上だどこかで思っていたい、単純にそんなふうに思います。

○市長（柳澤重夫） いずれにしても人間社会なもので、ロボットが進化するとはいっても、いずれにしても人間がつくる社会なものです。そういう人間社会をつくるためにどういう子どもたちを育てていくかということが必要で。だから、私は小さい市の子どもたちではなくて、日本人という視点で考えたほうが良いと思う。将来の日本をつくっていくにはどういう子どもたちを育てていくかと、そういうふうな視点でも、私はそう思っている。何で私がそういう言い方をするかということ、余談があるけれども、少子化が進んでいるわけで。この少子化が進んでいるというのは、もう国だって十分わかっているわけです。そういった中で移民を今受け入れようということをやっている。その以前にもう少子化対策を国が国策として打つべきだと思っていたのです。しかしながら、こういった人口がどんどん減っているのだから、移民を受け入れる。その前に日本人として日本をどうするのだということをお話しするとか、そういうものがなかったものだから、これはもう私はこういう教育についての日本人として日本の将来を担う子どもたちをどうして育てていくかということをお話しするようになってきた。

○教育委員（下村 勝） 市長がおっしゃられるように、これから移民という表現をしていますけれども、僕が今やっている大学の研究室は、半分留学生で、半分日本人なのですけれども、やっぱりすごく能力が高い留学生がたくさん来ているのです。だから、日本人が今のままでいてもなかなか勝てない。もうモチベーション高く持っていないと、勝てないのです。なので、日本人が使われる側になってしまう可能性があるのだから、もう本当にちゃんとしっかり教育を、小さい頃からの教育をやらないと、アメリカが今抱えている問題と同じようなことが日本でも起き得るかなということをちょっと真剣に思っています。

○市長（柳澤重夫） だから、そういう視点の中で考えたほうが、人づくりというのは私はいいと思う。教育と考えると、どうしても勉強にいつてしまう。教育というのは人をつくるのが教育なもので、社会へ通用する人をつくるのが教育なものだから、そういう視点で取り組んだほうがいいかなと思っているけれども。

○教育長（河原崎 全） 話がそれて、小さな話になってしまうのですが、今日新聞に高校入試の志願者の数が出ていました。ここ二、三年そういう流れだと思っていたのですが、今回大きなショックでもないですけれども、変わったなと思いました。今まで志願者割れないような高校が結構割れているのです。県内の高校で50校志願者割れのところが出て、これだけ割れると、今まで公立対私学が2対1の割合で採ってきたのが、私学がもっとたくさん、1よりもっと増やしてもいいのではないかというような話にもなってくるような気がしますし、あと公立志向でも近くでなくてももっと遠くに行きたいと。藤枝や焼津の子だったら静岡に行くとか、そういう大きい移動の範囲が出てきていると思うのです。そうすると、こういうところの公立高というのは必要なのかと思われてきがちにもなるし、子どもの動きの範囲が広くなるとともに、私学に通う子もふえてきて、変わってきたなというのを実感しました。

そういうふうになっても、どこに行こうが御前崎市の子どもだから、そこはちゃんとした子どもを育てていくというのが私たちの任務だと思うのですけれども、時代が変わってきたなということをお話しする今日の日新聞で思ったものですから、そういう世の中の流れとか、そういうものも実感した上で教育に携わっていかねばいけないのかなということも今日思いました。

○市長（柳澤重夫） 実際おっしゃるとおりで、そういった教育とか、そういったものが地元の規模といいますか、建設業もそう。例えば大工さんや建設業もそう。人が欲しくてもいない。こういう状況なものだから、そういった地元の職業とか、そういったものはもうなくなってしまうかも

しれない。だから、大工さんももう自分の今までやった大工さんをやめて、大きな工務店の下請になってしまっているのです。だから、そういった建設業もいずれはそういう入人がいないのだから、- そうせざるを得なくなってくると思う。大きなところはやって、それでその人たちがそこへお手伝いするとか、そういったことになってくる可能性はあるかもしれません。

○教育長（河原崎 全） 人口が1カ所に固まっていくというと、今の職業が、昔は割とバランスよくいろんな職業が成り立っていたのが、職業に一つの序列というか、それができて、偏りができてきたということもあると思いますし、それはすごく、教育とはちょっと離れるのかもしれないですけども、心配なことですよ。

○市長（柳澤重夫） 教育の中では、さっきも申し上げた。一般質問の中で職業教育も教育の中で大切な課題ではないかということも言ったこともあるけれども、それは学校教育の中で職業教育というものをそのカリキュラムの中には入れる必要はないかもしれないが、そういった中で年間に何時間ぐらひはそういった職業に関心を持ってもらうという教育の取り組みも必要ではないかということをやったけれども、今の教育のその時間の中でやるというのは、なかなか難しいかもしれない。だから、そういったいろんな職業を理解してもらうとか、わかってもらうと、そういったものは必要ではないかなと私は当時思ったものだから、今でも思わないわけではないけれども、今の先生方の多忙さを見るとそういったこともできないかもしれない。

○教育委員（竹田和世） でも、いろんな職業を知るというのは大事ですよ。中学生ぐらいでも、何になりたいかというのが具体的に言えない子がすごく多くて、夢を持っていないとか、これになるためにはこの資格が必要だから、この資格を取るために頑張ろうとか、そういうことがない。

○市長（柳澤重夫） そう。だから、ハローワークでここはどうですか、あそこはどうですかと、企業の名前を出して、その企業の現場を案内したそうです。この企業はこういうことをやっていますよと、そうしたら、物すごく就職率が変わったそうです。その現場を知るというのが大切なのだと思います。だから子どもの時からこんな仕事がある、あんな仕事もあるということを知っていたから、もしかしたら将来そういった職業に、みんなそれぞれ興味が違うので、そういったところへつく可能性もある。知っていないと全然わからないものね。興味が湧かないし。子どもたちはそういったものづくりとか、自分がつくり上げていくという、そういったものに興味を見せれば興味が出るのではないかと思うのです。

○教育長（河原崎 全） 特に結論を出すというものではないものですから、先ほど吉村委員からもお話がありましたけれども、昨日議会の市長の最初の市政方針の中で非常に具体的に説明がありました。学力向上とかというのはよくあるのですけれども、読書の推進までおっしゃっていただける、私は個人的には大変うれしいなと思ったのですけれども、うれしい分だけ組織としては、市長がおっしゃるといことは、事務局はそれをやらなければいけないということなものですから、逆に言えば一つの指示をいただいて、ちゃんと責任ある行動をとって、それが達成できるようにやっていかなければいけないという気持ちを昨日はうれしさとともに、緊張感を持って決意を新たにしたところでございます。

今日皆様方からご意見頂戴したところも含めながら、重点取り組みも考えていきたいと思ひますし、教育委員会と市長部局がどうのことよりも、御前崎市として市長の方針をもとにしながら、ぜひ達成していきたいと思ひますので、また教育委員の皆様方にはその都度ご意見等も頂戴して、お力をおかりしながら運営していきたいと思ひますので、ぜひよろしくお願ひをしたいと思います。

では、市長、最後にお願ひします。

○市長（柳澤重夫） 今日4名の教育委員の皆様には本当にお忙しい中ありがとうございました。また、それぞれ思うところを申し述べていただきまして、本当にそのとおりのような話が、現実性を帯びた話をいただきました。本当にありがたいと思ひます。これから御前崎市の教育も、今教育長からありましたように、この御前崎市の市政方針によってこれから進めていくわけですが、ぜひとも教育委員の先生方、そして教師の皆様にもこれがちゃんと伝わるように、一体となってこれを取り組ん

でいただけるようお願いしたいと思います。

教育というのは、物をつくるわけではありませんので、なかなかこれ一朝一夕にこの成果が出てこないものもありますが、これを着実に進めれば、必ずどこかで成果が出るというふうにも思っていますので、皆さんにはぜひとも粘り強く教育に取り組んでいただきますようお願いを申し上げます。本当に今日はありがとうございました。

○司会 貴重なご意見ありがとうございました。

## 5 閉 会

○司会 それでは、これをもちまして第2回の御前崎市総合教育会議を閉会させていただきたいと思っております。

互礼を交わしたいと思いますので。

(起 立)

○司会 相互に礼。

(相互に礼)

○司会 ありがとうございました。